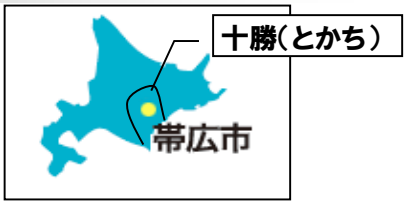
作成日：R元年10月18日

北海道帯広市

〒080-8670
北海道帯広市西5条南7丁目1
担当課：保健福祉部健康推進課
連絡先：
☎0155-25-9721　📠0155-25-7445　✉public_heaith@city.obihiro.hokkaido.jp

本市のデータ

「なつぞら」の舞台、北海道十勝・帯広について



1　面積　　619.34㎢（東京23区とほぼ同じ）
2　人口　　166,275人（高齢化率28.9%）
3　世帯数　　88,225世帯（住民基本台帳－令和元年9月30日現在）
4　歴史　　平成24年に開拓130周年、市制施行80年を迎えました
5　基幹産業　　農業
　　耕作面積は、20,818ヘクタール
　　（ラグビーコート29,770個分）
　　家畜頭数は、31,521頭
　　（牛、馬、豚、羊、鶏の合計）

6　気候　　1日の気温差が平均10℃以上
　　最高気温が30℃を超える日が平均10日、最低気温が0℃を下回る日が平均56日

本市の概要

帯広市は、都市と農村、自然環境が調和した「田園都市」づくりをすすめています。また、農業を主要産業とする十勝地方(約35万人、1市16町2村)の中心地であり、農産物集積地、商業都市としての役割を担っています。

十勝・帯広の農産物は全国的にも有名で、中でも小豆の品質は全国一であることから、有名な老舗和菓子店のあんは、多くが帯広の豆を使用しています。

世界で唯一の帯広で行われているばんえい競馬は、体重1トンを超える馬が重りをのせた 鉄ソリを引いて直線コースで力とスピ ードを競う伝統ある競馬です。

世界でドイツと十勝にしかない、モール質の温泉が湧きだしています。帯広の銭湯のお湯はすべてこのモール温泉を使用しています。

支援に向けての取り組み状況

＜対策の方針・目標＞

国のモデル事業を活用しながら、平成30年3月に帯広市自殺対策計画を策定しました。

これまで若年層へ重点的な対策を行っていたこともあり、平成25年に30.8だった自殺死亡率は、平成30年には17.9に低下しました。しかし、60歳以上が自殺者数に占める割合が約50％をとなるなど課題は多くあります。

帯広市では、「生きるを支える取組み」として、その名のとおり市民全体が連携や協働することで行う、地域づくりとしての自殺対策を進めています。

＜具体的な取組み＞

生きるを支える連携会議

副市長命名の自殺対策計画の進捗管理と全体統括をする庁内連携会議。

計画の進捗に関しては、いつも厳しい意見をいただきます。

一言メモとエピソード

・今や副市長は事業担当者より自殺対策に詳しくなるほど、日々情報収集や自己学習を続けています。

・会議でも理解不足の委員（部長）に対して、自殺対策の基本をレクチャーするなど、まさに中心的な存在です。

多分野合同研修会

相談支援や事例検討などを実施する「研修」部門と保健医療福祉、教育、労働、司法、消防、警察等、様々な関係者と情報共有や対策を協議する「会議」部門の両側面で実施してます。

一言メモとエピソード

・北海道（保健所）と企画の段階から一緒に考えて実施しています。同じ課の職員以上に相談しているかもしれません。

・多方面から、「どのように支援したらよいか」という相談がくるようになりました。

SOSの出し方教室

これまで高校や専門学校に向けて実施してきました。今年度は、新たに中学生向けにテキストを作成し教育委員会と協力しながら進めています。

若者だけでなく、学校の先生に対しても講座を行っています。

総合相談会

市内のスーパー、食品レジ前の通路で実施しました。行政書士や就労支援といった関係機関と協力しながら、相談が来るのを待つのではなく、自分たちが相談を受けに行こうという考えのもと実施しています。

ゲートキーパー養成講座

多くの人に受けていただきたいと思っているのですが、年間数十人の受講にとどまっています。

事業の検討が必要になっています。

困りごと

・「ゲートキーパー」ってなにと言われることが多いです。言葉の説明からするため、なかなか講座の実施に結びつきません。

・企業や各種団体の方にも受講してもらいたいのですが、反応が良くないです。（認知症サポーター養成講座は皆積極的なのですが）